

第75号



2023.10月



発行 城里町社会福祉協議会 ☎029-288-7013 FAX 029-288-7021 ホームページ <https://www.shirosato-syakyo.com>
編集 広報ボランティアグループ



7月22日(土)に、常北保健福祉センターにて、「夏休み応援フードパントリー」を開催しました。



JA 水戸しろさと農産物直売部会の皆さん

食品を無料配布で子育て応援
フードパントリー*



新鮮な野菜



お米や日用品など

※食に困ったときに無償で食の支援が受けられる場所(活動)です。

食品を手にした方からは、「こんなにたくさん頂けてうれしい」「買って買っても足りないから助かります」「コロナ禍で大変だったけど元気が出ました」等の喜びの声を頂きました。



お手伝いしてくれた城里町厚生保護女性会の皆さん

この事業は、茨城県共同募金の助成を受けて、町内に居住している準要保護世帯を対象に行われました。この助成金で日用品等を購入し、またJA水戸しろさと農産物直売部会の方々にご賛同頂き、野菜類等を無償で提供頂きました。

主な内容

- 敬老会・金婚式典 2・3P
- 善意銀行の使われ方 5P
- ひきこもり当事者の居場所「このゆびとまれ」... 6P
- 与三郎庵 7P



「劇団いばらき水戸黄門」による漫遊記の1シーン



笠間警察署 宮河課長による講話

9月18日(月)コミュニティセンター城里において、城里町敬老会・金婚式典が開催されました。式典は午前9時30分より、藤田副町長の開式のことばではじまり、主催者の上遠野町長が敬老者、金婚者に労いのことばを送りました。続いて金婚者記念品贈呈に移り、金婚者代表の方に記念品が贈られました。その後、来賓祝辞として阿久津町議会議員、川津県議会議員、さらに来賓紹介、知事メッセージ代読、祝電披露と続き、添田教育長の閉式のことばで式典は終了しました。

式典の後、アトラクションとして、最初に笠間警察署生活安全課宮河課長による「ニセ電話詐欺の現状と具体的な被害防止対策」と題した講話がありました。今年もすでに県内160件、3.6億円の被害が発生しているとの話に、会場が少し騒めきました。出席者の中にもニセ電話を経験された方がいたようでした。詐欺をする相手は電話を録音されることを非常に嫌うとのこと。「今の電話機に録音できる機器を設置することも良い方法です」とも話されました。

2つ目は、「劇団いばらき水戸黄門」によるおなじみの水戸光圀公漫遊記でした。場面は焼け跡の宿場街に建つ1軒の宿屋。そこに女将と焼け出された物乞いが登場。この2人の人情たつぷりでユーモアあふれる語り合いが実に面白い。そして必ず登場する悪代官、それを懲らしめる黄門様ご一行。短時間で物語を終わらせなければならぬため話が急展開する場面もありましたが、人情味あふれる女将が実はスリの親分の娘であったこと。その女将が悪代官の財布をスッたお陰で代官の悪事がばれ、黄門様にお灸を据えられる、という筋書きでなかなか楽しい劇でした。



檜山 勝一・邦子 夫妻 (石塚)

この度、金婚式を迎える事ができ、家族やお世話になっている皆様に感謝をし、これからも健康に気を付けて過ごしていきたいと思います。



飯山 常・きみ子 夫妻 (上入野)

金婚式を迎える事ができ、夢のようです。家族や皆様のお陰と感謝しております。今後も孫の成長を楽しみに元気に過ごしたいです。



加藤 隆文・久子 夫妻 (下古内)

金婚式を迎えることができ幸せです。色々な人の支えがあって今があることに感謝です。楽しく、健康に老いていきたいです。



阿久津 一成・みさ子 夫妻 (小勝)

病気もしましたが、現在は二人とも元気で、金婚式を迎えることができました。皆様に感謝し、一日でも長く楽しく過ごしたいです。

***** (金婚者の写真掲載は希望者のみです)

お二人が結婚された1973年(昭和48年)の出来事

ヒット曲

- * 女のみち／宮史郎とぴんからトリオ
- * 学生街の喫茶店／ガロ
- * 喝采／ちあきなおみ
- * 危険なふたり／沢田研二
- * 神田川／かぐや姫

流行語

- * うちのカミさんがね (コロンボ刑事の口癖)
- * せまい日本、そんなに急いでいっしょに行く (遠山の金さんのせりふ)
- * これにて一件落着

ファッション

- * ジーンズスタイル
- * テニスルック
- * バギーパンツ
- * フレアースカートの復活

出来事

- * 石油ショックによる物価急上昇
- * 奈良テレビ放送開局
- * 輪島が第54代横綱に昇進
- * ノストラダムスの大予言が出版される

おのづから

「ボランティア活動に 参加をお願いします」

寺門 茂雄さん(石塚)

石塚に住む寺門茂雄さん
を取材しました。寺門さん
の名前を伺いますと、写真
館のマスター、ボランティア
ア連絡協議会の会長さんの
顔が浮んで来ます。

ボランティア活動参加へ
のきっかけは、旧常北町の
「運転ボランティア」の募集
があり、それに応募したの
が始まりです。その活動内
容は、町の健康診断で再検
診があった方に対し、ホロ
ルの湯でリハビリ教室が開
催され、その参加者の送迎
を行う事でした。

寺門さんは、現在、17年
間民生委員としても活動し
ています。地域の方の見守
りを行っており、隅々まで
目が届くよう努力していま
す。寺門さんは民生委員と
して、高齢者を「援助する」
のではなく、「支援者であれ」
の言葉を心掛けて活動して

います。更に「福祉有償移
送サービス」も行っていま
す。月2回程度、病院に通
院する方の「送迎」を担当し
ています。



10年前までは、ボランテ
ィア活動の組織は24組織あ
りました。しかし現在は20
組織まで減少しています。

その主な原因は、活動する
人の高齢化によるものと判
断しています。10年前の城
里町の人口は約2万人でし
たが、現在は1.8万人まで減
少しています。更にここ3
年間はコロナ感染拡大によ
り、活動が制限されたこと
にもあると捉えています。

社協の活動は、このボラン
ティアの活動に支えられて
いると言っても、過言では
無いのです。待っていたの
では、新たな人達のボランテ
ィア活動への参加は望めま
せん。身近な人への積極的
な声掛けをお願いします。

寺門さんのボランティア
活動は、枚挙にいとまが無
い程担当されています。そ
れでも自分の趣味を楽しん
でいます。その趣味とは成
田空港に行って旅客機の離
着時のエンジンの音を聞く
ことです。現在では、ボー
イング社製旅客機のエンジ
ンの音と、エアバス社製エ
ンジンの音との違いを、聞
き分けることが出来ると熱
く語っていました。

また航空科学博物館の会
員となっていて、フライト
シミュレーションによる旅
客機操縦体験が可能なので
す。しかし、いつ申し込ん
でも満杯で、未だに体験が
できていません。これを体
験するまで成田に通い続け
る、とのことでした。

つくしの四季

9月16日(土)茨城県障害
者スポーツ大会が笠松運動
公園で開催されました。コ
ロナの影響があり4年ぶり
の開催ですが、つくしの仲
間たちは、前回同様レクリ
エーション競技に出場しま
した。

競技種目も絞られ、午前
のみの活動でしたが、最後
の種目「みんなでダンス」で
は、「つくしYOSAKOI
城里」としてよさこいを踊
るという中身の濃い一日と
なりました。今回は周りを
観客の皆さんが囲むなかで
丸くなって踊るという初め
の経験。みんなはいつも
より少し緊張しているよう
でしたが、毎日の作業の前
に一生懸命練習した「南中
ソーラン」と「しゃげサンバ」
の2曲を元気いっぱい踊る
ことができました。

踊りが得意な人も大勢の
人たちの前に出て硬くなっ
ている様子でしたが、曲が

進むにつれてだんだん調子
が出てリズムに乗ってきま
した。旗や魚の作り物を音
楽に合わせて動かす人もい
ます。踊りの経験が少ない
方は旗を振る係でしたが、
自分も踊りたいなど目を輝
かせていました。また歌の
得意な仲間周りのテント
席にまで届くような大きな
声を響かせていました。汗
びっしょりになりながら練
習の成果を発揮することが
でき、清々しい笑顔が見ら
れました。



青空の下でよさこい

皆様からの寄付金(善意銀行)は 様々な福祉事業に使用されています

ふれあい訪問事業

ボランティアの協力を得て、物品等を持参し、70歳以上の申請のあった一人暮らしの方の安否確認を行っています。



生活困窮者世帯 支援事業

困窮者(生活保護申請検討者等)に、食料品等の物資支援を行っています。



介護用品支給事業

要介護認定3・4・5高齢者、重度心身障害(児)者(身障手帳1級または療育手帳A、療育手帳Ⓐ)の方に、年間3回の給付を行っています。



訪問理美容事業

満65歳以上の在宅の高齢者で、寝たきりや歩行困難等の理由により、理美容所に行くことができない方に、年間4回以内の訪問理美容提供の一部補助を行っています。



身体障害者補助犬 飼育管理費補助事業

身体障害者手帳所持の方で、補犬の貸与を受けており、補助犬の登録及び予防接種を実施している方に助成しています。



自主防災組織 運営活動費補助事業

地域の要支援者の把握調査等を行い、自発的な防火防災活動を行う組織に対し、補助を行っています。



令和4年度は 541,050円のご寄付を頂きました。

誠にありがとうございました。

皆様から寄せられましたまごころを大切に使用しています。

これからも皆様からのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



沢山小学校 車いす・アイマスク体験



9月14日(木)、沢山小学校4年生を対象に、車いすとアイマスクの福祉体験が行われました。車いすや白杖を使用し体験することは、障害がある方が不安になる時、戸惑う時を知ることにつながり、それを知ること自分たちがサポートできることは“何か”を学ぶことができます。

障害がある方が、「障害」があるということを意識しないで生活できる、バリアフリーの社会を作る担い手になってほしいと願っています。



ひきこもり当事者の居場所

「このゆびとまれ」を開設中!!

(地域ケア推進事業)

社会福祉協議会では、社会で生きづらさを感じている方に安心できる自分の居場所を見つけてほしいとの思いから、みんなの居場所「このゆびとまれ」を開設いたしました。

ひきこもり当事者ばかりでなく、そのご家族にとっても、安心できる場所になってほしいと願っています。

開設日 毎月第3金曜日
時間 午後1時30分から3時30分
場所 常北保健福祉センター 2階 研修室
参加費 無料

- ・ひとりで悩んでいませんか？
- ・皆さんと話してみませんか？
- ・話を聞いてみませんか？

お待ちしております。



※「このゆびとまれ」のボランティアを募集しています。 城里町社会福祉協議会 ☎029-288-7013



両手に黄色い旗を持って、子どもたちを見守る松島さん

しろさと ⑤⑧
子どもの安全見守り隊
全国で子どもが登下校中に犯罪被害に遭うケースが見られます。被害の多くは、子どもだけで行動しているときや、人目の少ない状況で発生しています。こうした犯罪被害を減らすためには、登下校中の子どもを見守り活動が欠かせません。「沢山学区子ども安全見守り隊」では「黄色い」ベストを着用し、交通量の多い交差点などに立って子どもが安全に通行できるように見守っています。長年、隊員を続けている松島満男さんは、「安全に通学できるように取り組み、子どもたちに喜んでもらえるように活動している」と話していました。

参考文献「文部科学省HP」

与三郎庵

チャリティー&バザー開催

秋風が心地よい9月26日(火)、水戸市木葉下の与三郎庵で22回目となるチャリティー&バザーが、午前10時から開催されました。

この催しは、水戸市赤塚地区民生委員協議会の有志14名(うちOB3名)の協力により開かれ、今回は22回目にあたります。コロナ過のため、中止せざるを得なかった時もありましたが、やっと昨年引き続き今年も開くことができ、地元の皆さんも大喜びでした。

開店と同時に、多くのお客様が与三郎庵特製のけんちんそばに舌鼓をうっていました。店の前では、あげ立ての天ぷらやオリーブオイル、ゴマ油、ヤギ乳製品のチーズタルトなど、また地元特産の秋梨(恵水)、岩間の栗、自家製の野菜などが販売され、皆さん喜んで買い求めていました。



にぎわう つくしのお店

ター「つくし」のメンバーも参加し、手作りの小物や皆で育てた紅あずま、シヨウガなどの販売をしました。なかでも、飼育したメダカを買って下さったお客様には、ホテイアオイをサービ스에差し上げ喜ばれていました。

平日にもかかわらず、11時ごろには駐車場もいっぱいになるほど次々とお客様が来場していました。

なお、この売上金は、水戸市と城里町の社会福祉協議会へ寄付されます。



手話を学ぶ ④④

いろいろな地名の表し方 ⑥

10月に入り朝夕はだいぶ涼しくなってきました。コロナ禍で中止されていた催し物も開催され始め、以前のような賑わいが戻りつつあります。

【難波】

両手の指を開いて前に向け、親指を重ねてパタパタと動かす



※南海も同じ表現。また、手のひらを手前に向けて同様にする(祝詞となる)。

【函館】

両手の5指を曲げ、かみ合わせのようにして箱の形を作る



※「はこだて」の「は」から「箱」と同じ表現になる。

【延岡】

左手は握って前に少し傾け、その上方に右手の輪を置く。右手の輪をはじいて左手にぶつける動きを2回繰り返す。



※現地で使われている表現

【前橋】

右手の手のひらを前に向け、親指と小指を伸ばす。前に2回倒す



※現地で使われている表現

【丸の内】(玉)+(中)

軽く曲げた両手の手のひらを向かい合わせ、丸めるように回す。



左の手のひらを手前に向け、右手の人差し指を入れる



※「玉」を丸める様子「丸める・まんじゅう・餅も同じ」

【水戸】

右手をあごの下におき、下げながら握る



※水戸黄門がひげをなでる様子から

【四日市】

右手の4本の指を立てて顔の前におき下げる。



※数字の「4」と「市場」を組み合わせた表現 (すぐに使える手話辞典6000より引用)

加藤 たきさん 95歳 根高

広々とした田を眼下に望む高台に家を構え、4世代7人家族で住んでいる加藤たきさん。

23歳の時に石塚からこの地に、農家に嫁いできました。当時は電化製品などなく、集めた薪で炊事をしたり、箒やハタキで掃除をしたり。農業も殆んどの作業

わが町のさわやか元気さん 61

浅野 セツさん 97歳 那珂西

浅野セツさんの家の前は畑が広く野菜等を栽培しています。お子様は男4人で、孫、ひ孫がいます。ひ孫が来る時が一番嬉しいと笑顔で話してくれました。

趣味は、編み物と地域の皆さんとクロッキーをすることです。コロナ禍により近所の方のお付き合いが、



少なくなり寂しいと話していました。

青春時代は日本も戦争だったので良い思い出はないが、同級生の名前を出し懐

が人力で、眼下の田んぼから家まで重い荷を背負って運んだそうです。今の時代では想像が及ばない程、大変な日常を送っていました。

「農業一色、夢中でやってきたので、どこに行ったらか趣味とか何にもないのよ」と、笑顔で話をしてくださいました。たきさんはこの忙しい生活の中で、嫁いだ時から毎日、日記を付けていていつ、何があったかを見返す事ができるそうです。



また、たきさんは眼鏡や補聴器なしで生活しています。これには少し驚きました。

いつまでもお元気でお過ごしください。

かしく昔の話しをしてくださいました。

元気の源は、好き嫌いく何でも食べることです。

特に鰻が好きで故郷の小川で捕った鰻の味が忘れられないそうです。

普段座っている、椅子の周りには、社協広報紙「かざぐるま」がキレイに綴じてありました。新聞は毎日読んで情報を収集するそうです。笑顔が素敵なセツさんでした。

歳末見舞金の申請が開始されました

年末に歳末たすけあい見舞金を配付いたします。対象の方は、世帯全体が町民税非課税、令和5年10月1日現在、町内に1年以上住民票を有している世帯であり、かつ次に該当する方になります。

1. 対象者

- ① 満66歳以上のひとり暮らしの高齢者世帯
- ② 介護保険区分が要介護4又は5の方がいる、在宅介護を受けている世帯
- ③ 重度心身障害者(児)世帯
- ④ 母子・父子世帯
- ⑤ 準要保護世帯

※但し、施設に入所・入居している方及び生活保護世帯は対象外となります。

2. 申請書配付場所及び申請する場所

城里町社会福祉協議会 (石塚1428-1) または 七会保健福祉センター (小勝1400)

3. 申し込み受付期間

令和5年10月16日(月)～令和5年11月17日(金) 〇歳末たすけあい見舞金は、歳末たすけあい募金を財源としています。

目次

- フードパントリー 1
- 敬老会・金婚式典 2・3
- きらっと生きる 4
- つくしの四季 68 4
- 寄付金の使い道 5
- 沢山小学校車いす・アイマスク体験 6
- ひきこもり当事者の居場所 6
- しるさと 68 6
- 与三郎庵チャリティ&バザー 7
- 手話を学ぶ 64 7
- わが町のさわやか元気さん 61 8
- 歳末見舞金 8
- 目次・編集後記 8

編集後記

ある日の午後、丘の上から遠く古里の山並みを眺めてみる。山の上にふわりふわりと浮かぶ大小さまざまな綿雲。そのすき間を埋めつくす真つ青な空。正面からの風は少しの冷たさを運んできて気持ちいい。遠く、時には大きく聞こえる車の走る音、そして鳥の声。間もなく駆け足でやって来て、短く、ゆつくりと去っていつて欲しい秋が来る。